

◇ 学校運営方針の説明 (大山 浩司 校長)

○児童数141名、教職員数26名。

○学校目標を「思い描く学校を共に創り上げる子ども」(令和4年度より)とし、今年度も継承している。前校長の海藤校長からは、子どもたちも学校目標を意識して取り組めていることを聞いている。

○校長として、今年度2つ付け加えさせていただいた。東郷小の教育を支える基盤として、良好な人間関係づくりとあたたかい学校学級づくりである。教職員同士が気軽に相談でき、日常的な学び合いができる関係。報告・連絡・相談による速やかな情報共有と組織的な対応。児童と教職員との関係づくりにおいては、一人ひとりが認められるあたたかい学級経営。楽しくてわかる授業。日常的なあたたかい声かけと交流。特に、普通のことをしっかりできている時の声かけに努めたい。教職員と保護者・地域との関係においては、職員室の雰囲気とその学校がわかると考えているので、あいさつや丁寧な対応に努めていきたい。2つ目としては、様々なわかりづらい専門的教育用語を極力使わず、保護者や地域の方に分かりやすい言葉で伝えていきたい。

○子どもたちにも分かりやすい言葉で伝えていきたい。例えば、「主体的に」とは、「自分から」がんばること。あいさつ、学習、運動、かかりの仕事などを自分たちで考える、自分たちでまわりを守る。「共に」とは、「みんなで」がんばること。思いやる、協力する、縦割り活動や児童会活動などと伝えている。

○(4月からの学校生活状況で子どもたちが自分から、自分たちで、みんなをスライドで紹介) 4年生の授業の様子で、自分たちでつくった問題を友だちに出しながら授業を進めている写真。教師は脇で見守っている。休み時間に外遊びなど積極的に行っている写真。町の記録会前は、リレーのバトン練習を自分たちで練習。子どもたちから「先生、バトンパスの仕方を教えて下さい。」の声かけがあった。児童会の活動として行っている「あいさつ名人」の写真。登校班の写真。この班は、1年生に合わせた速度で歩いてくる。一番はやくスタートしているが学校に着くのは最後。縦割り活動の班の顔合わせの写真。みんなでかかり活動の計画を立てている写真。連合記録会での応援の写真。応援賞があったら東郷小だったと思う。児童会の代表委員会の写真。休み時間に一生懸命話し合いを行っている。1年生を迎える会の写真。

○最近あった嬉しい話題として、連合記録会時に、トイレの乱雑になっていたスリッパを整えてくれ、トイレに来た他校の職員に「どうぞ」とスリッパを並べてくれた。また、拾った財布を子ども110番になっていた整骨院へ届けてくれた。落とした東京から来県した方より御礼の電話と本が届けられた。外で体育をすることが多くなり、昇降口が泥だらけになっているのを高学年が自主的に泥を掃き出してくれている。

○子どもたちへのメッセージとして、「がんばっていることはつづけてがんばろう」「がんばりがたりないことは、これからがんばろう」それが、今よりもっとすてきな東郷小にすることだと声をかけている。

○思い描く学校を共に創り上げるこども。子どもをとってもよい。共には、子ども・教師・保護者・地域による。



- 「よくわかる東郷小学校～基本ガイド～」令和6年度版の発行。保護者の方にも分かりやすい言葉を使いながらワンペーパーにまとめている。
- 「令和6年度 よくわかる東郷小のPTA 活動」役員制とサポーター制のハイブリッド方式で実施している。今年はボランティアの募集を進めて行く。

◇ 学校運営方針への質問や意見 （ 各委員の方より ）

- ・話を聞いていて、自分の子は協調性をもってみんなとやれているのかと心配している。成長の過程で育つように願っている。
- ・校長先生からの説明を聞き、また、自分の子どもが楽しく学校に行き、学校のことを話してくれることをみると、学校の雰囲気がいいのだろうと感じられた。できることをほめていきたいと感じた。
- ・とてもよい学校だと感じている。町内会では学年関係なく仲良く遊んでいる。地域の見守りには大変感謝している。続いて行ってほしい。当たり前のことをほめたい。
- ・先生たちからは、苦勞しながらよくしていただいている。子どもたちは大半学校で生活しているので、先生たちに目をかけていただいていること、相談にのっていただいていることを嬉しく思っている。信頼関係が大事だと感じているので今後もお願いしたい。
- ・毎日登校していることを当たり前と思っていたが、毎日がんばっているねとほめていただいたことに感謝している。地域との関係も密で、民生委員の方の見守りや上級生の思いやりを強く感じている。
- ・自分の子どもは卒業している。娘も息子も進んで来夢来人で活動できた。改めて地域の学校、地域のよさを感じるとともに、よい先生と出会えたことを感じている。校舎は東郷地区のシンボルであり、子ども・教員・保護者・地域の方みんなで掃除をする機会があってもいい。
- ・学校も親も以前とは考え方が変わってきている。子どももよい子ばかりで逆に大丈夫かと思うほどである。

◎ 学校運営方針については承認をいただきました。

◇ 熟議テーマ 「地域（ふるさと）へ思いを寄せる子どもの育成」に関わって

- ・学校でごみ処理にかかわる学習をやってきたことに関心をもったらしく、自分の地域のゴミ処理の状況や下水道にかかわることを知りたいような素振りがあった。自分が暮らす場所のことを理解しようとすることは大切なことと感じる。
- ・校長先生の話にあった財布を拾って届けたこと、子どもたちにとって、子ども110番として佐久間整骨院さんが地域に密着していた。子どもたちも安心して持ち寄れる場となっていたからと思う。
- ・通学路に蜂が巣をつくったことがあり地域の方が対応にあたってくれたりした。日常的に子どもの様子を気にして見てくれているというのが地域のつながりだと思う。
- ・自分が子どものころは、地域の方からよく叱られた思いがある。それだけ、子どもたちのことを真剣に考えていたのだと感じる。
- ・子どもが家にいれば自然に関わりはできる。世帯によっては小中学生がいない場合もあり、関わり方は難しい場合がある。
- ・地域の方とつながる一歩となるあいさつ。親があいさつを交わせば、こどもは自然と交わすものだと理解する。自分の子どもを見ていると、上の子が地域の人にあいさつをしているのを見て下の子もあいさつを交わすようになった。

※次回の協議会では、授業参観、給食試食、6年生と「ふるさと」についての意見交流を実施する方向でいる。